

無気力で悲観的な父… もしかして認知症？

父は最近、何もしたがらず嘆いてばかりです。認知症でしょうか。

A 気持ちの落ち込みが続くのは「血管性認知症」が疑われます。

急

に行動意欲が低下したり、ネガティブな発言が増えたりする原因は、「血管性認知症」かもしれません。

血管性認知症は、日本ではアルツハイマー型に次いで2番目に多い認知症です。脳出血や脳梗塞といった脳血管障害に

よって、脳の細胞の一部がダメージを受けることで発症します。

血管性認知症の分かりやすい特徴の一つが、何に対しても消極的になったり、ちよつとしたことで激しく気分が落ち込んだりする感情の障害です。喜怒哀楽をうまくコント



指導 浦上克哉

鳥取大学医学部
認知症予防学講座・教授、
日本認知症予防学会理事長

ロールできなくなり、悲しくもないのに泣いたり、おかしくもないのに笑ったりする症状（感情失禁）が現れることもあります。

また手足や指などが自分の思い通りに動かさなくなる運動機能障害が目立つケースもあります。

脳のどの部位が障害を受けたかによって症状は異なり、片側の手足だけが動かしづらい、会話だけが困難になるなど、まだらに機能が低下するのも特徴です。

血

管性認知症は、小さな脳血管障害が再発するたびに段階的に悪化します。これを防ぐには、生活習慣を整えるとともに、外出して頭と体を適度に動かすことが

大切です。

しかし本人は意欲を失っていて、自発的に取り組もうとしません。そのため、家族がほめたり励ましたり、外出に繰り返し誘ったりする必要がありまふ。「天気が悪い」「疲れている」など理由をつけて断られるかもしれないほうがよいでしょう。

なお無気力で悲観的になる症状は、アルツハイマー型の初期段階でもみられます。認知症ではなく「老人性うつ病」の可能性もあります。いずれにせよ放置することなく、速やかにかかりつけ医か認知症の専門医に相談しましょう。

血管性認知症を見分けるヒント

高齢者の脳の中では、小さな血管が梗塞や出血を起こすことがたびたびあります。さらに脳全体の血流低下が重なって、血管性認知症が突発することもあるので、ちょっとした変化に早めに気づくことが大切です。

感情障害

- ・悲観的になる
- ・消極的になる
- ・行動力がなくなる
- ・感情失禁

運動機能障害

- ・手足や指などが動かしづらくなる

※人によって（障害を受けた部分によって）症状が異なる ※もの忘れはあまりひどくないことも多い

症状を悪化させないために

- 家族が積極的に外出を促し、運動不足や脳への刺激の低下を防ぐ
- 食生活と運動習慣を見直し、血液の流れを妨げる動脈硬化を改善する

※医師から処方されている薬（脳血管障害の再発予防薬や生活習慣病の治療薬など）をきちんと服用することも重要